

国史跡盛岡城跡

—第 37・38 次調査—

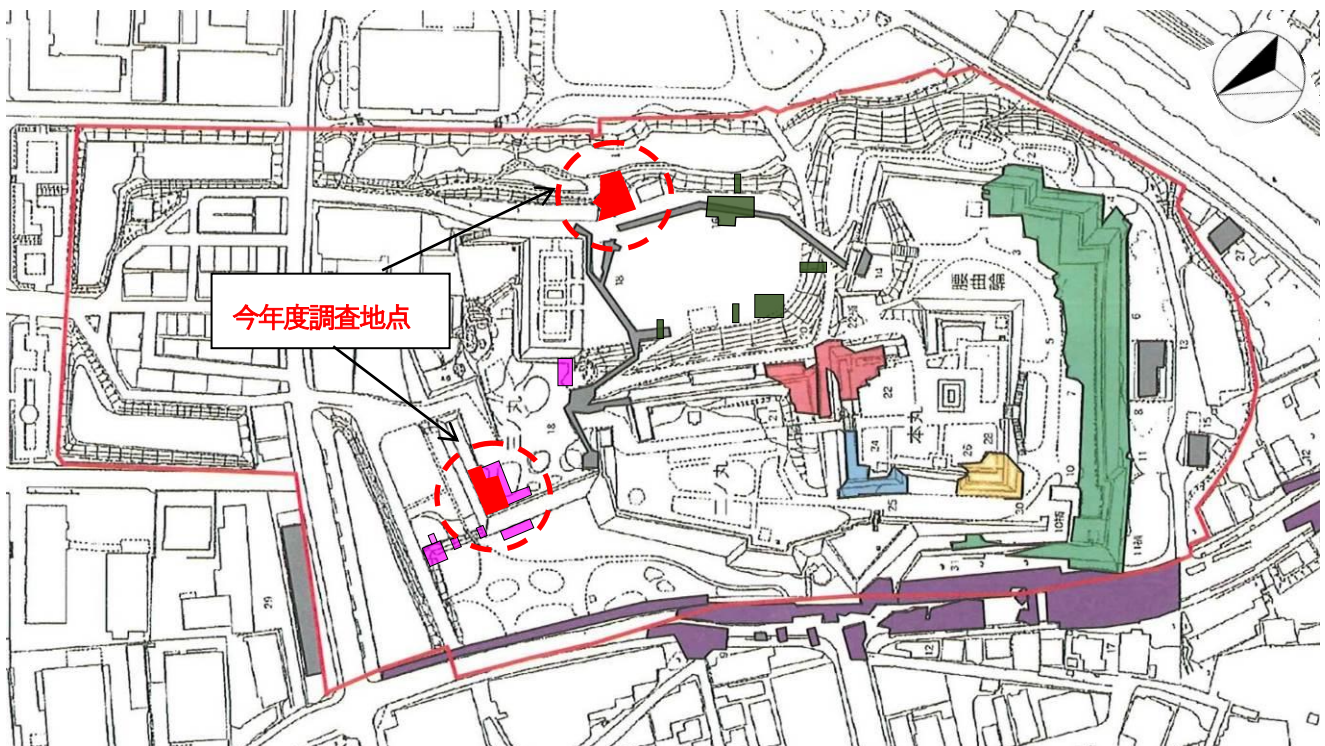
○盛岡城について

盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵地を利用して築かれた平山城です。初代盛岡藩主南部信直が慶長 3 年(1598)、豊臣秀吉から築城普請の許可を得て、築城工事が進められました。おおよその完成を見た寛永 10 年(1633)に3代藩主南部重直が入城して以来、南部氏 20 万石の居城となりました。

明治維新後、盛岡城は陸軍省の所管となり、城内建物の保存も検討されましたが、荒廃が進み維持が困難なことから、明治 7 年(1874)にそのほとんどは取り壊されてしまいました。その後、公園整備の計画が進められ明治 39 年(1906)に「岩手公園」として開園しました。また、往時を偲ぼせる雄大な石垣が良好に残されていたことから、昭和 12 年(1937)に国指定史跡に指定されました。

○発掘調査について

築城以来、400 年以上も風雪に耐えた石垣ですが、近年傷みが目立ちはじめ、崩落の恐れも心配される箇所も出てきました。そこで盛岡市は、平成 24 年度に「史跡盛岡城跡整備基本計画」を策定し、崩落の恐れのある一部石垣の解体修復(積み直し)を行い、それに伴う発掘調査を実施しています。これまでの調査で、石垣の変遷や構築方法なども徐々に明らかになりつつあります。



盛岡城跡全体図
発掘調査実施箇所

| | |
|---|---|
| ■ 本丸北東・二ノ丸南東 (H5~6) | ■ 淡路丸 (S59~H2) |
| ■ 本丸北西 (H8) | ■ 本丸南西 (H10~12) |
| ■ 三ノ丸北西・南東 (H25~) | ■ 台所 (H28~) |
| ■ 都市計画道路拡幅 (S62~H1) | ■ 確認調査等 |

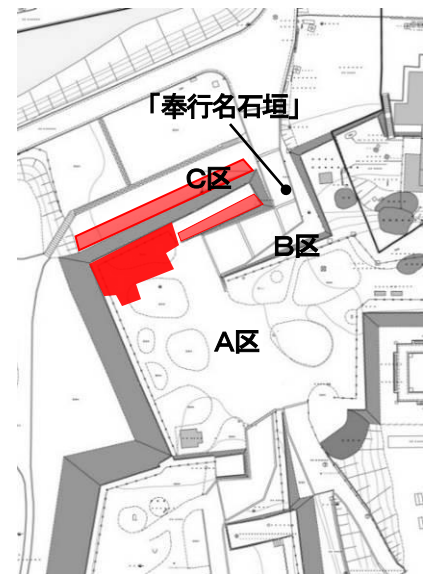
第37次発掘調査成果(12月1日現在)

調査期間 平成30年9月27日～同年12月中旬(予定)
調査位置 三ノ丸北西石垣上面(A区:継続),
三ノ丸瓦門北側石垣上面(B区:昨年度終了)
三ノ丸北西石垣下面(C区:昨年度終了)
調査目的 三ノ丸北西石垣解体修理に伴う事前調査
調査面積 約260㎡

確認した遺構

- A区 天端石・栗石・盛土(盛岡城2期・4期), 土塀の控柱跡
- B区 天端石・栗石・盛土(盛岡城4期)
- C区 根石・根石据方(盛岡城2期または4期), 根固石(盛岡城4期)

出土遺物 藩政期 軒丸瓦(双鶴文), 軒平瓦(鳶文), 平瓦・丸瓦片



第37次調査区位置図

調査内容

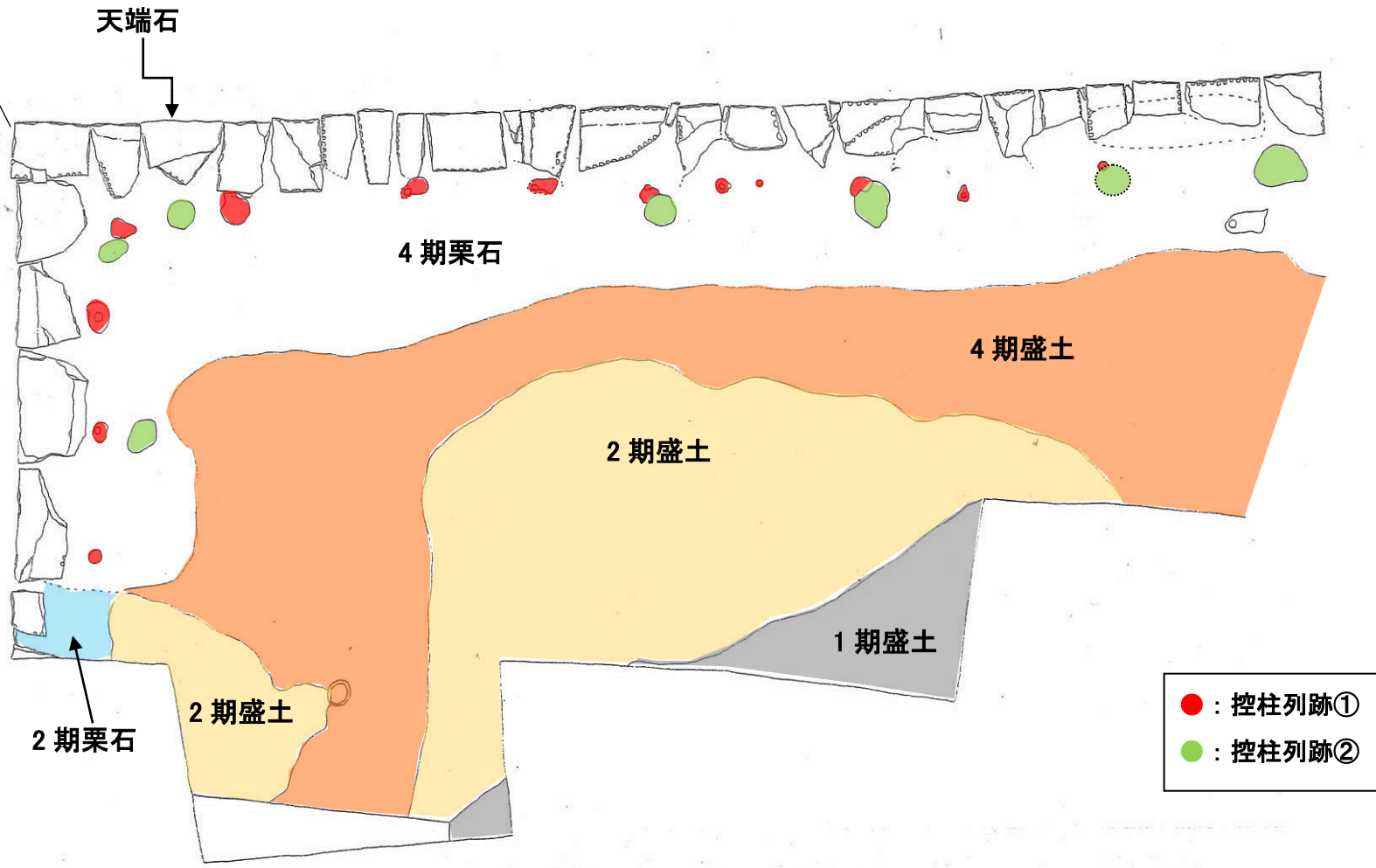
第37次調査は、石垣変位調査や目視等で変位が大きいと確認されている、三ノ丸北西部北面の石垣修復に伴い、内部の栗石や盛土の状況、根石の深さ等を確認するために実施しています。

今年度はA区周辺の柵を撤去し、昨年度確認できなかった石垣の天端石や栗石の調査を行いました。B・C区については昨年度の調査内容です。

A区・・・三ノ丸北西部上面に位置し、北面石垣(布積)は元和年間(1617～)の構築後(2期)、宝永2年(1705)に積み直されています(4期)。4期の栗石幅は、約2.0～2.5mです。宝永2年の石垣修理の際に2期盛土を削平し、積み直していますが、その新旧盛土の境目は、調査区南東から西へ延び、調査区中央付近で方向を変え南へ延びています。石垣の北西隅より南に7.0m付近で新旧の栗石の境目も確認しています。2期の栗石幅は約1.0mで、細かく計測はしていませんが、4期よりも石の粒径が小さい印象を受けます。また、天端石の前面より1.2～1.6m内側の栗石内に約1.8m間隔で並ぶ、土塀の控柱跡と考えられる柱列跡を確認しています。約3.0mの間隔で並ぶ柱跡もあるので、控柱は2時期に分かれるようです。盛岡城で土塀の控柱跡が確認されたのは、今回が初めてです。

B区・・・瓦門北側上面に位置し、石垣天端石・栗石・盛土(4期以降)を確認しています。栗石上面の盛土は、これまで三ノ丸の調査では確認されていない盛土で、おそらく公園整備時にこの場所は、あまり削平を受けなかったため残存したものと思われます。また、この盛土直下の石垣内部には栗石のみが充填されていました。

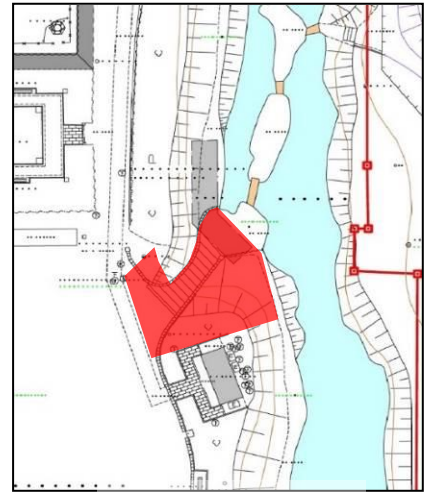
C区・・・北西部下面に位置し、石垣根石・根石据方、根石前面の根固石を確認しています。根固石は、一部抜き取られている部分(近代の建物建築の際か)もありますが、当初は全ての根石前面に設置されていたものと思われます。使用石材は花崗岩の自然石が多いですが、中には矢穴が確認できる割石もあり、2期と4期の矢穴を確認しています。このことから、根固石を設置したのは宝永2年の積み直しの際と考えられます。根石は自然面の残る割石や野面石を多く使用していることから、基本的に2期根石を残しているようです。



第37次調査 三ノ丸北西上面全体図 (1:100)

第38次発掘調査成果（12月1日現在）

| | |
|------|--------------------------|
| 調査期間 | 平成30年10月25日～同年12月中旬（予定） |
| 調査位置 | 台所門枅形東側 |
| 調査目的 | 台所門枅形の整備に伴う事前調査 |
| 調査面積 | 約250㎡ |
| 検出遺構 | 台所門枅形石垣、栗石、土塁跡、土橋、土橋の側溝跡 |
| 出土遺物 | 藩政期 平瓦・丸瓦片 |



第38次調査区位置図

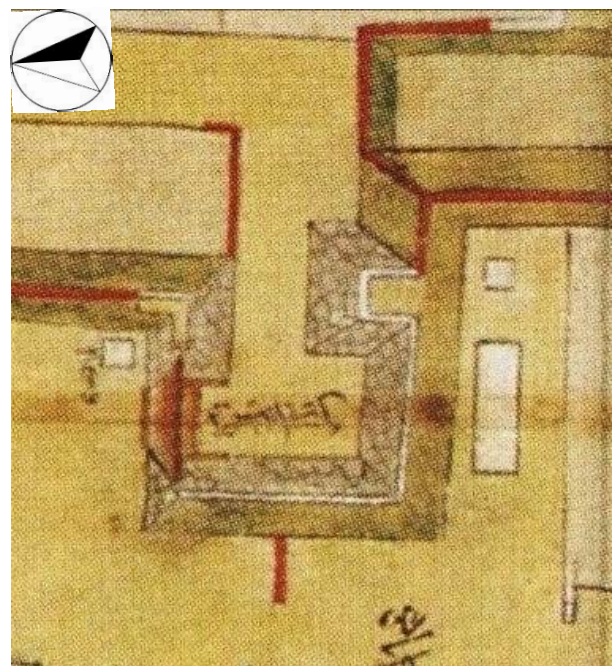
調査内容

第38次調査は、将来的な台所地区の史跡整備に備え、台所門枅形の内容確認のために行っているものです。今年度は昨年度に引き続き、土橋の残存状況や枅形の石垣の正確な位置などを調査しました。

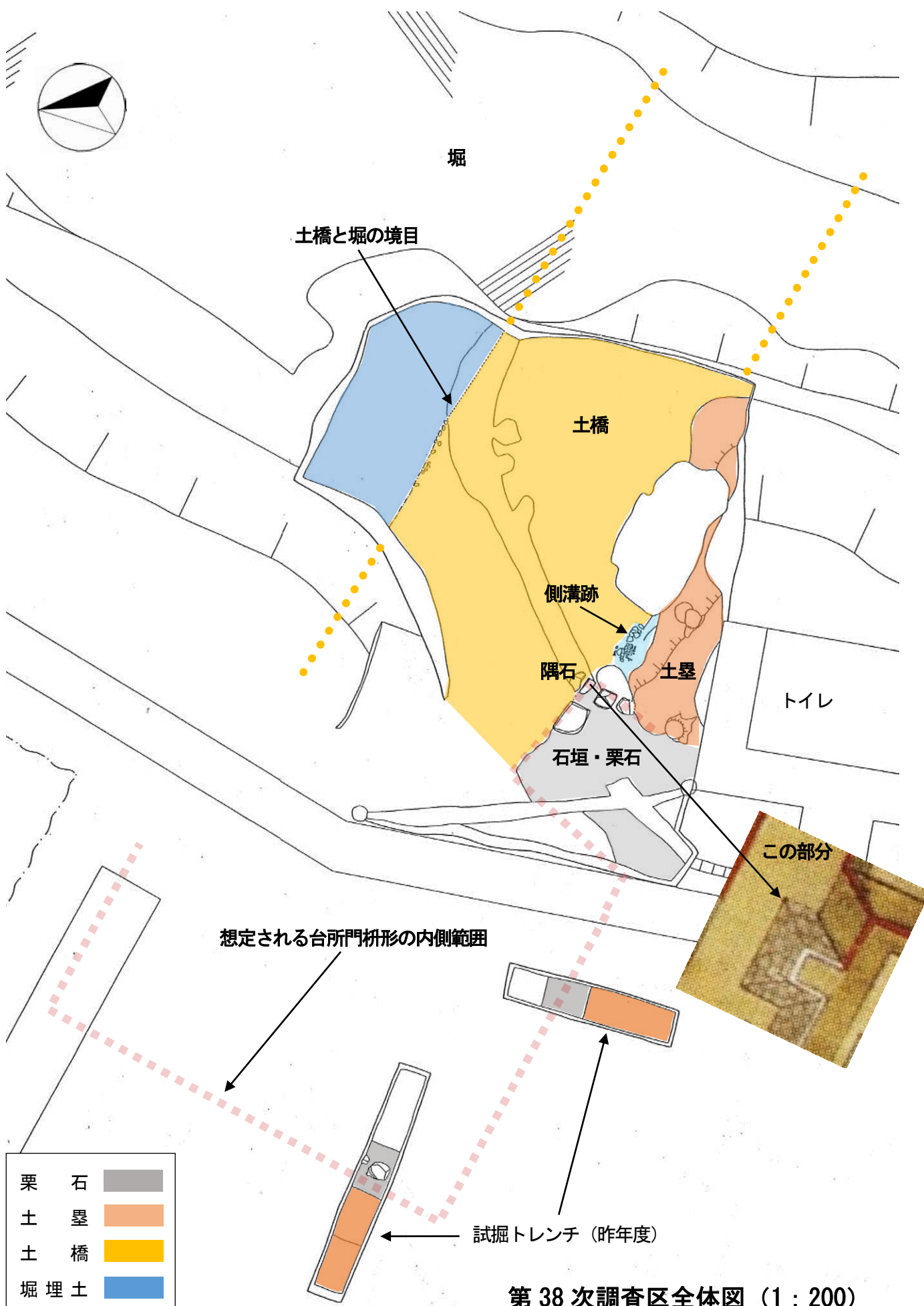
枅形に伴う石垣・・・台所門枅形に伴う石垣を調査区南西部で確認しました。この石垣は、枅形の内側（北）に飛び出す形で造られた部分にあたります。築石は公園整備時に撤去されてしまったようですが、根石が4石と栗石は残っていたのでおよその石垣の範囲は特定できそうです。根石の隅石の位置と栗石の範囲から、この石垣の幅は約5mと考えられます。この石垣は、明治39年（1906）の開園以前は存在していた石垣ですので、実に112年振りにその姿を再確認しました。

土橋・・・台所門の東には、堀を挟んで重臣屋敷が立ち並び、そこから渡るための土橋が架かっていました。これもやはり、公園整備時に撤去されてしまいましたが、一部は壊されずに残されており、今回の調査で確認することができました。土橋の幅は約10mで、一部、硬く締まった路面も残っています。土橋の南端は土塁の裾と接していますが、そこに排水施設と考えられる石組の側溝跡を確認しています。台所門は台所地区の中でも地形的に低く、水が集まりやすい場所なので、このような排水施設は必須だったのではないのでしょうか。

土塁・・・東側の堀に沿って内側（城内）には、南北に伸びる土塁が築かれていました。今回の調査で確認した土塁は、平成28年度の調査で確認された堀の西側にある土塁が北に延び、枅形の石垣と一体化する部分と考えられます。土塁の盛土は、地山の花崗岩風化層や礫層、砂利層などを交互に重ねて搗き固める方法で造られています。

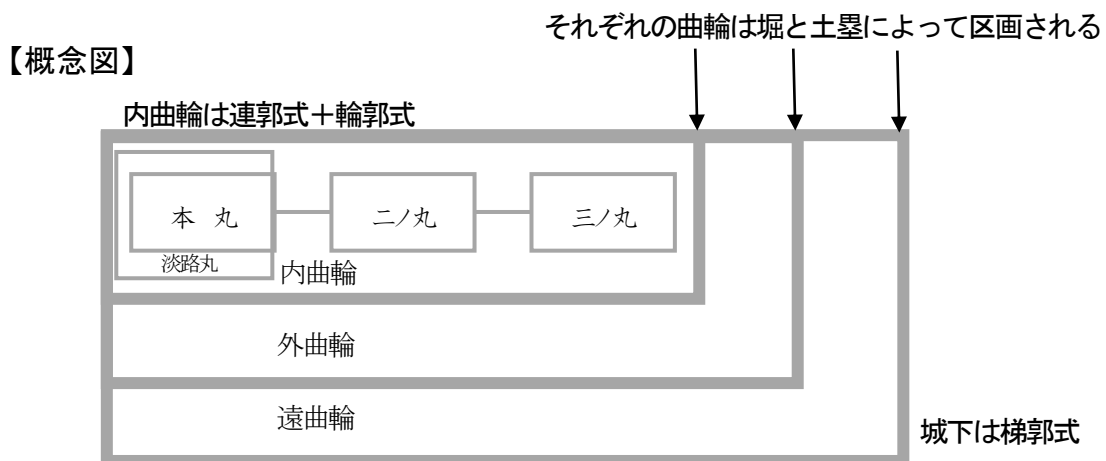


絵図面に描かれた台所門枅形（明和三年盛岡城図）



第 38 次調査区全体図 (1 : 200)

○盛岡城の概要



(1) 基本構造

- ① 北上川と中津川の合流点に接した丘陵部に築城(平山城)
- ② 本丸がある内曲輪(城内)を要とし、外曲輪、遠曲輪(総構)の順に扇形に配置(梯郭式)
- ③ 曲輪のそれぞれが堀と土塁で画される。
- ④ 内曲輪は、本丸・二ノ丸・三ノ丸と、下曲輪が段下がりであり、腰曲輪(淡路丸)、榊山稻荷曲輪、台所などの部分から構成(連郭式+輪郭式)

(2) 築城工事等

- ① 築城総奉行…南部信直の嫡子利直を総奉行に歟(鋤)初(慶長2年<1597>)
- ② 着工年代…慶長2年(1597)～慶長3年(1598)
- ③ 工事期間…40年以上→工事の中断(最上出陣・信直の死去・中津川・北上川の洪水等)
- ④ 仮居城…三戸城・福岡城(寛永12年<1635>)・郡山城(寛文7<1667>に廃城)
- ⑤ 完成時期…寛永10年(1633)頃←同年8月、利直の死亡によって重直の初入部(盛岡入)

(3) 築城・石垣普請に関わった人物

- ① 内堀伊豆頼式…近江国出身で元は浅井氏家臣。浅井氏滅亡後、前田利家に仕えていた。九戸合戦後、信直の招聘により南部家に移り、実際の築城の助言者となる。
- ② 奥寺八左衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣(二ノ丸西側)に刻字あり。
- ③ 野田弥右衛門…石垣奉行。貞享3年銘石垣と**宝永2年銘石垣(三ノ丸北側)**に刻字あり。
- ④ 川守田弥五兵衛…石垣奉行。**宝永2年銘石垣**に刻字あり。

(4) 改修事業

- ① 落雷による本丸御殿の延焼(寛永13年<1636>)
- ② 頻繁な石垣普請…洪水・火災・石垣の崩壊
- ③ 本丸の「三重矢倉(櫓)・二階矢倉」の再構築(寛文13年<1673>)
- ④ 三重矢倉(三階櫓)を「天守」と改称させる(天保13年<1842>)

○盛岡城の石垣

(1) 石垣の積み方

- ①乱積…大ききの異なる石を積上げる方法。石の大きさがバラバラなので、目地は通っていない。
- ②布積…大きさが揃った石を横に並べて積上げる。石の大きさが均等で、目地が横に通っている。
- ③算木積…石垣の隅（コーナー）の積み方。長方形に整形された石を長短互い違いに積む。



乱積(三ノ丸西側)



布積(三ノ丸北側)



算木積(瓦門北東隅)

(2) 矢穴の種類

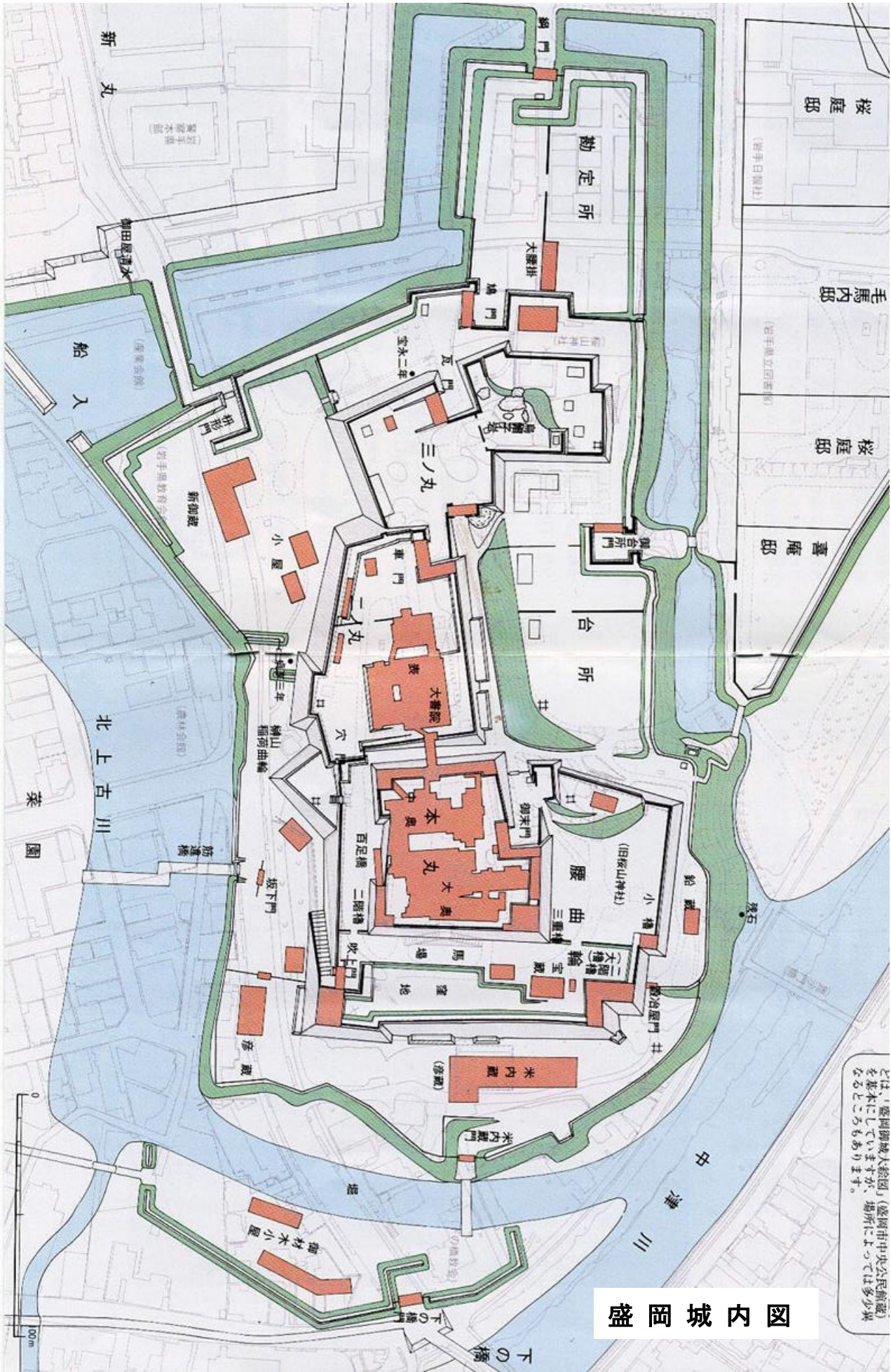
矢穴…石材を分割するクサビを打ち込んだ痕。
 時期ごとに長さが異なる。

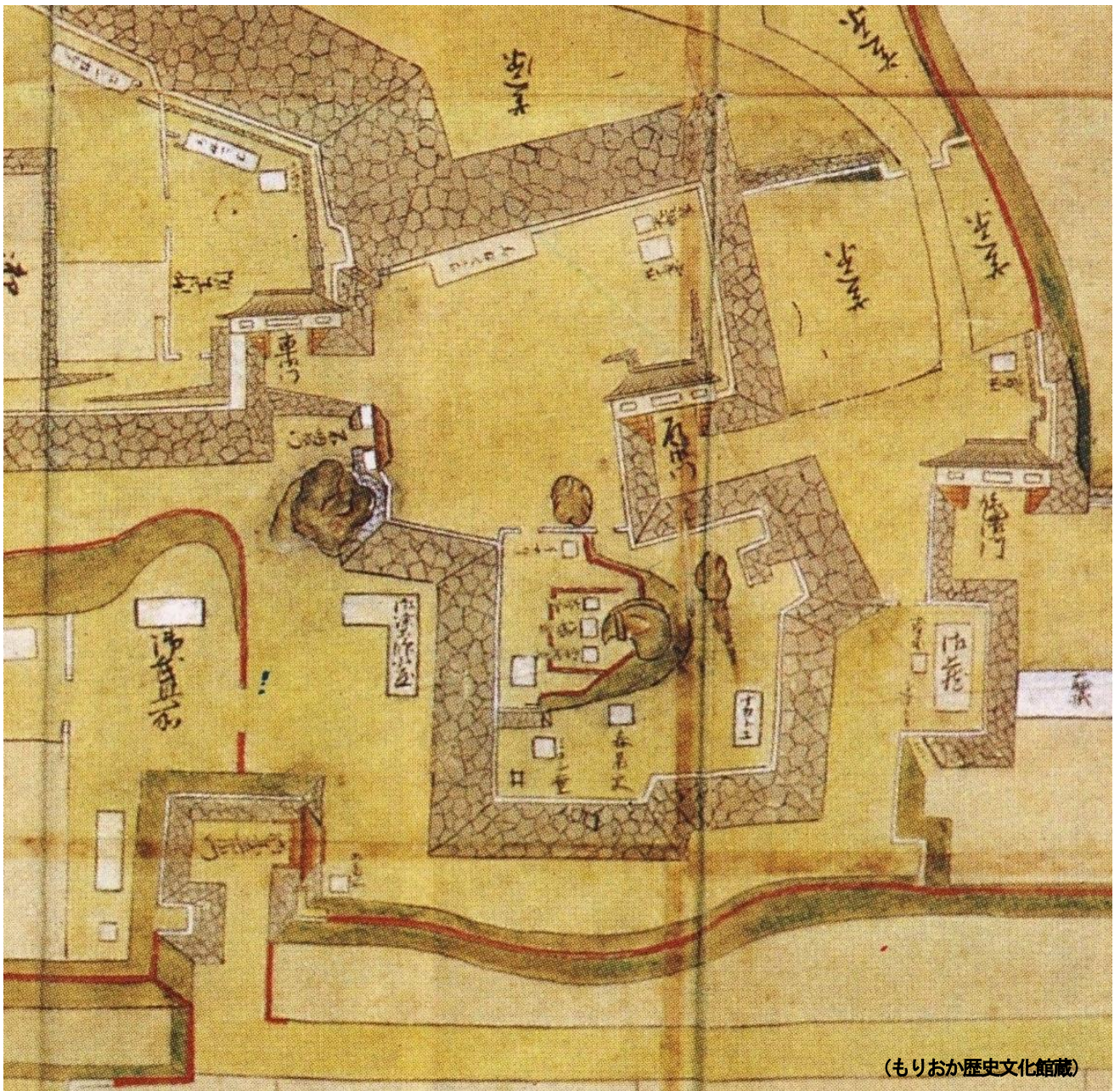
- ・盛岡城1期…9cm～13cm
- ・盛岡城2期…14～21cm (盛岡城で最大)
- ・盛岡城3期以降…4～6cm (盛岡城で最小)



○盛岡城の石垣様式と遺構の変遷

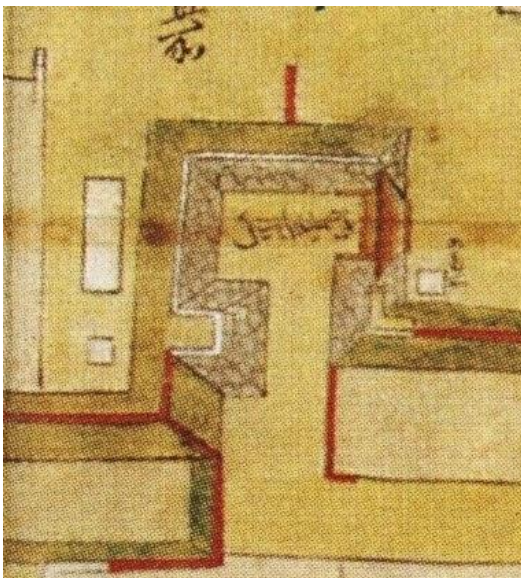
| 時 期 | | 年 代 | 概 要 | |
|-----------------------|---|---------|-----------------------------------|--|
| 不 来 方 城 期 | ① | 不來方城1期 | 14世紀末頃～ | 丘陵の頂部から中腹にかけて城郭が築かれる。 |
| | ② | 不來方城2a期 | 15世紀末 ～16世紀前半 | 丘陵裾部まで拡大される。後の本丸・二ノ丸・三ノ丸・腰曲輪の前身の曲輪が存在した。 |
| 不來方城2b期 | | 16世紀後半 | 本丸付近の堀改修。 腰曲輪の嵩上げ。 | |
| 盛 岡 城 期 | ③ | 盛岡城1期 | 16世紀末 (慶長2年:1597)～ | 不來方城を大改修。本丸、二ノ丸、城内主要虎口に石垣が築かれる(乱積)。石垣は、角石に割石、築石に野面石を用いた乱積。腰曲輪の法面は土手のままで木柵が廻る。 |
| | ④ | 盛岡城2期 | 17世紀前葉 (元和3年:1617)～ | 本丸、二ノ丸石垣の改修(本丸の拡張)。城の西側を除き、腰曲輪・三ノ丸に石垣が構築(乱積)される。石垣は築石に至るまで割石で乱積。建物に双鶴文(向鶴)の瓦が葺かれる。寛永13年(1636)本丸の大半を焼失。 |
| | ⑤ | 盛岡城3期 | 17世紀後葉 (寛文8年:1668)～ | 腰曲輪西側・二ノ丸西側・榊山曲輪の石垣が構築される(布積)。本丸三重櫓再建と腰曲輪などの主な櫓等に赤瓦が葺かれる。 |
| | ⑥ | 盛岡城4期 | 18世紀前葉～中葉 (宝永元年:1704)～ | 本丸西側、二ノ丸北東部、三ノ丸北側、腰曲輪西側などの石垣積み直し(布積)。 腰曲輪南と二ノ丸東にハバキ石垣構築(布積、元文5年:1737～)。 腰曲輪窪地の縮小。 |
| | ⑦ | 盛岡城5期 | 18世紀後葉 ～19世紀中葉 (～明治7年:1874) | 腰曲輪窪地の埋め立て。 腰曲輪南西隅櫓を廃止して吹上三社勧請。 城内排水設備の整備。 明治7年建物払い下げ、取り壊し。 |



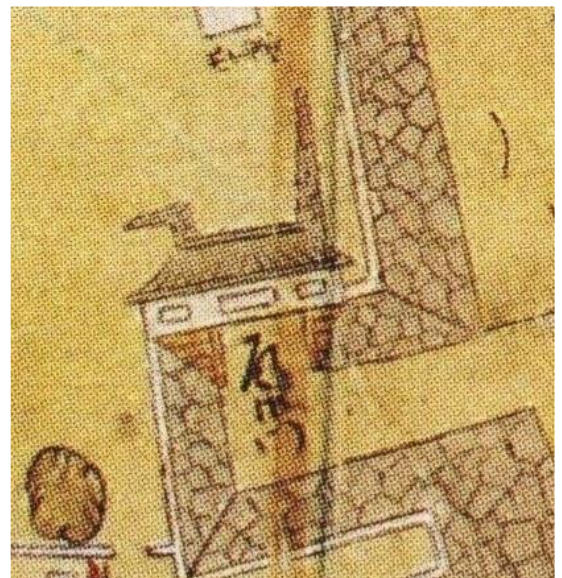


(もりおか歴史文化館蔵)

「明和三年書上盛岡城図」(三ノ丸付近一部抜粋)



台所門付近拡大



瓦門付近拡大



三ノ丸北西部石垣上面 全景



北西部

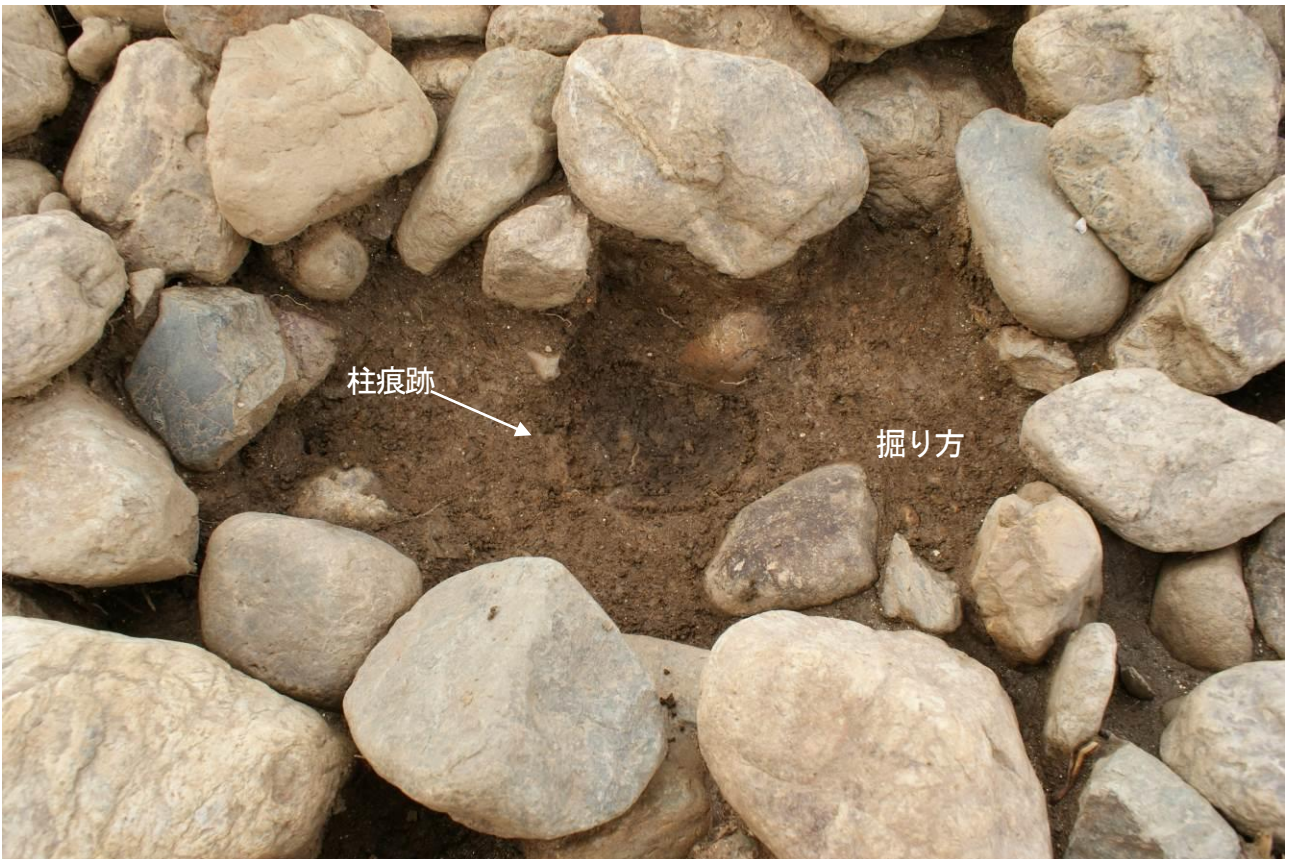


瓦門北側

三ノ丸北西部上面 天端石・栗石検出状況



三ノ丸北西部上面 控柱跡①検出状況



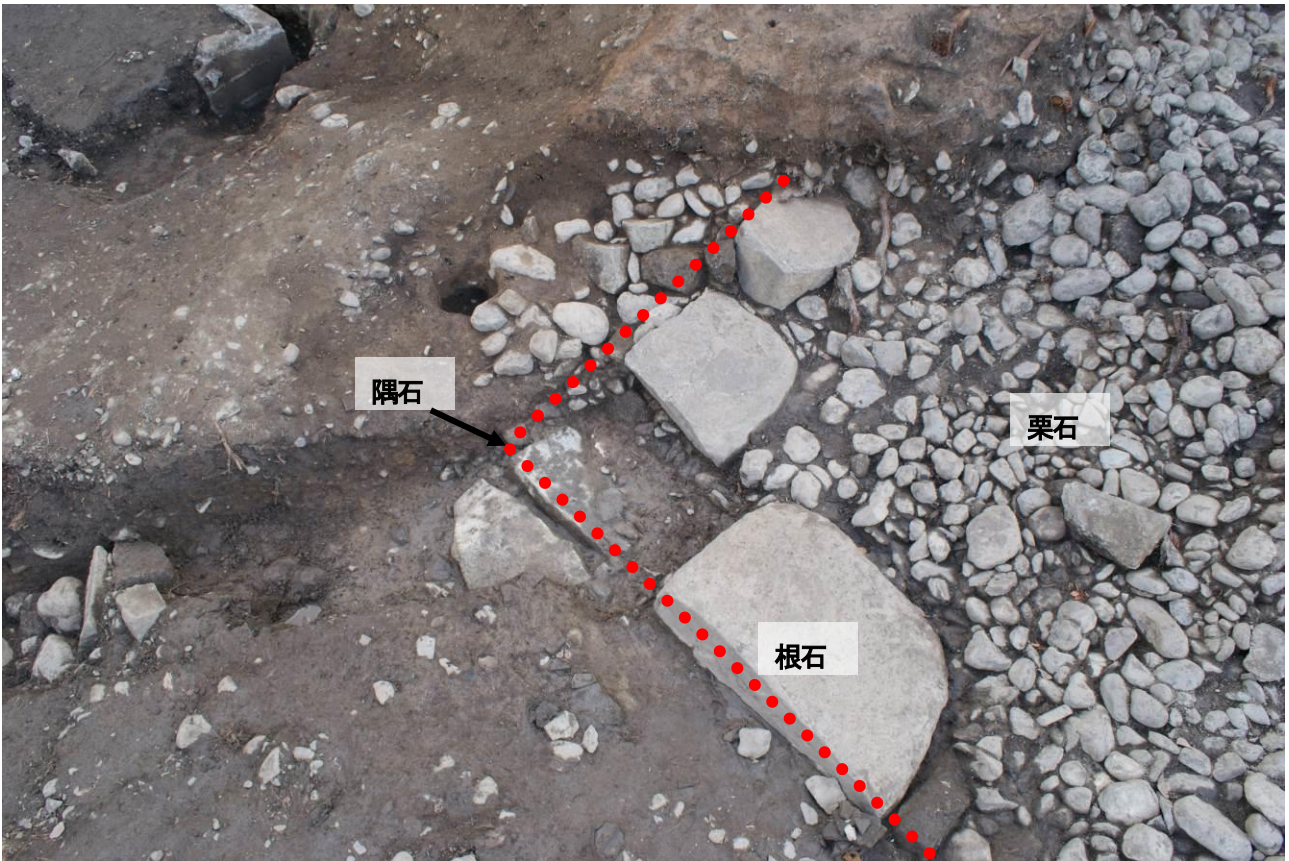
三ノ丸北西部上面 控柱跡①検出状況



三ノ丸北西部上面 控柱跡②検出状況



三ノ丸北西部上面 控柱跡②検出状況



台所門枡形 石垣根石検出状況（北から）



土塁検出状況（北から）



土橋側溝跡検出状況（南西から）



堀と土橋の境目（西から）